

メコン川は中国雲南省から、ミャンマーとラオスの国境、ラオスとタイの国境を通り、ラオスに入って、カンボジアを通過してベトナム南部で南シナ海に出るまで、それぞれの国の文化をはぐくんだ東南アジアにとって重要な川である。

ホーチミンから南西に70,80kmくらいのところにあるメコン河口の三角州に面したミトーを訪れ、そこから中州に渡るメコン川クルーズは日帰りで行けるので人気である。

ミトーへの道

ミトーへは高速道路が通じている。日本のOEDで建設されている。料金所がまだ出来上がっていないなど未完成の部分が残されているが、観光に物資輸送にと日常的に利用されている。2012年には完成して有料道路になると聞いた。

ホテルから出発してメコンデルタに向かう。郊外に出ると粗末な住宅や店舗が目につく。ベトナム戦争の傷がまだ完全には癒えていないようだ。



郊外では新興住宅や集合住宅が建設されてきている。その道路際にこんな店を見つけた。壁タイルの見本が展示され、屋根には貯水タンクが置かれてある。店の中には陶製便器がおいてある。工務店というところだ。隣は食堂になっていて、下の写真のように食料品も売っている。



バイクに乗った若者が飲み物らしい物を買っていた。驚いたことに、このような露天の食料品売り場に必ずといって良いくらいフランスパンがケースに入って売られている。それも目立つ場所に置かれているのだ。ベトナムといえば米文化の国だ。麺のホーにしる、生春巻きにても米粉を使用している。

フランス植民地時代の影響が、街中でもパンがよく売られているのを見かける。たしかにホテルの朝食に出されたパンは他の東南アジアのパンより美味しい。



しばらく行くと田園風景が広がってくる。この写真は農村への入り口になっている。住宅らしきものが林の中に数軒建っている。人の出入りは結構ある。この周辺には市場らしきものもあるが、通過した時間帯が昼近かったので、売っているものは殆どなかった。

都会に出る路線バスがあるだろうかと見ていたが、バス停はない。まだ完成していない道路なので、そこまでの整備がまだ出来ていないのかもしれない。

やがて広い米の耕作地に入る。このあたりは穀倉地帯で年三回も米が収穫できる。広大でどこまでも田圃が続いていた。



両側の田圃に墓がある。真ん中にあることもあるし、端のあぜ道近くにもある。ガイドのリンさんに尋ねると、ベトナムはまだ土葬なのだそうだ。生前に本人が埋葬場所を決めていて、遺族がそれを違えることは出来ないのだという。石造りの棺桶様で一棺に一体入っている。自分の思い入れの場所を指定するので、場所も方向もばらばらになっていて年一回春節に集まった一族が墓の掃除とお参りする習慣が今もって守られているそうだ。人口の多い都会でもまだ土葬をしているのだろうか。疑問に思って尋ねると都会では空いている土地がなくなって、一部火葬も行われているらしい。ただ墓地が高騰して大きな社会問題になっているという。周辺の国が火葬になってきている。農村部とはいえここで土葬の風習がいつまで続けられるのだろうか。

そんなことを考えている間にミトーへ到着した。



ミトーは綺麗に整備された都会だ。メコンデルタに面した漁村くらいに思っていたが、とんでもない。近代的なビルが建ち、歩道も整備され、並木も美しい。人口は16万人。以前クメール王国だった場所で、今でもクメール人が多く住んでいる。

また、ここはベトナム戦争の激戦地だったところでもある。おそらく破壊され、枯葉作戦で荒れた地域だったものと思われる。建物が皆新しいことから見て、その後の再建、復興を果たした姿ではなからうか。

メコンデルタは過去古くから、色んな文化を有する国が栄え、滅んだ場所でもあるし、米作を中心とした農業、メコン川の漁業、それに最近では観光業と経済的には重要な場所である。都市が整備されているのもうなずけた。

上の右の写真の所は官庁街らしい。郵便局の大きな建物が見える。メコン川に沿って大きな通りがあり、そこにメコン川クルーズの港がある。写真はその港から撮ったものである。

